

平成19年度 東日本高速道路株式会社 事業評価監視委員会 議事要旨

1. 日 時 : 平成20年2月29日(金) 15:00~16:05
2. 場 所 : 東日本高速道路株式会社 本社15階会議室
3. 出席者 : 森地委員長、岡部委員、亀山委員、杉山委員
4. 議 事

(1) 事後評価について

- 今年度の事業評価対象事案である「東北中央自動車道(山形上山~東根)」の事後評価の審議がなされ、事業の効果、評価結果及び対応方針(案)について、原案のとおり了承された。

(2) 主な意見等について

(事故率の実態と費用便益分析における事故減少便益について)

- 東北中央自動車道の開通前後で東北中央自動車道と国道13号の両者を合わせた事故率が増加している実態が報告され、費用便益(B/C)の事故減少便益算出の考え方を確認するとともに今後の事故便益の算出における検討事項として整理した。
- 道路事業に対する費用便益分析は、国土交通省のマニュアルにより算出しており、事故減少便益についても、高速道路利用により事故損失額が軽減される状況を全国の実績から数式化した手法に基づいて算出していることを確認した。
- なお、今回のケースでは、高速道路と一般道間の事故率の差は大きいため、高速道路利用による事故減少便益は発生しているものと考えられるが、並行する一般国道の事故件数が増えている特異な側面もあり、このような事例への対応は今後の検討事項として整理した。

(大気環境 NO₂・CO の予測値について)

- 大気環境の現況把握において、今回予測した NO₂・CO の濃度値について、環境基準を下回っているものの、アセス時の NO₂・CO の予測値より高くなっているとの指摘があったが、これは、バックグラウンドの濃度値に起因するもので、今回の予測では並行国道沿線の常時監視測定局の実績値が、高速道路予定地で計測したアセス時のバックグラウンドの濃度値より高かったことが要因であることとを確認した。

(ネットワーク整備に関する意見について)

- 高速道路の計画においては、需要予測を初めとして十分に検討を行ったうえで、早期にネットワーク化を図る必要がある。その際、需要予測が極めて重要であり、地域の経済動向を十分に認識して予測を行なうことが重要である。今回審議に対象路線のある東北地域においては、今後、日本海側(新潟、秋田、酒田)からの欧州・ロシア向け国際貿易の活発化が想定されることから、これらを意識したネットワークを考えていくべきであるとの意見が出された。

(計画交通量と実績交通量の乖離について)

- 供用前における計画交通量と実績交通量とで、一部乖離していた状況については、交通量の乖離要因であった一般道路のネットワーク条件を見直したことにより、現時点では、実績と予測交通量との乖離はなくなっていることを確認した。

以 上